

## 樹木希林さん

写真は映画「あん」のサイトから。ストーリーは「縁あってどら焼き屋「どら春」の雇われ店長として単調な日々をこなしていた千太郎（永瀬正敏）。そのお店の常連である中学生のワカナ（内田伽羅）。ある日、その店の求人募集の貼り紙をみて、そこで働くことを懇願する一人の老女、徳江（樹木希林）が現れ、どらやきの粒あん作りを任せること。徳江の作った粒あんはあまりに美味しく、みるみるうちに店は繁盛。しかし心ない噂が、彼らの運命を大きく変えていく…」

この映画がテレビで放映されたので、録画してじっくりと観た。「元ハンセン病患者の老女が尊厳失わず生きようとする姿を丁寧に紡ぐ人間ドラマ」というだけあり、じつに見ごたえがある作品だった。何といっても、徳江を演じた樹木希林さんの飄々として、凜とした振る舞い、表情が印象的だった。そして、樹木さんらしい独特の語り口にも惹かれた。

そのあと、梅田の書店で写真の朝日文庫『モリのいる場所』を手にした。表紙カバー裏には、「昭和49年夏。結婚52年目を迎えた画家・熊谷守一（モリ）と妻・秀子のある1日を描いた映画『モリのいる場所』の小説版」と。

モリを演じるのが山崎務さん。山崎さんいえば、1963年に公開された黒澤明監督の『天国と地獄』を思い出す。竹内銀次郎という名の貧しい環境に暮らす「インターン」、誘拐事件の犯人を演じていた。モリでは94歳の画家役だ。その妻・秀子を演じるのが樹木希林さん。写真のように、モリと連れ添う老夫婦、「文句はあるけど、いつまでも二人で」という感じがよく出ている。

そして28日にレポートした「日日是好日」。お茶の先生役を演じる樹木希林さん。「あん」だけテレビで映画を観たが、「モリのいる場所」「日日是好日」は本をつうじて、樹木さんの声が聞こえてくるようであった。あの飄々とした表情も頭に浮かんできた。樹木希林さんは、それだけ心に残る個性的な女優さんだった。残念ながら、樹木さんは9月15日に亡くなった。

(2018年10月30日)

